

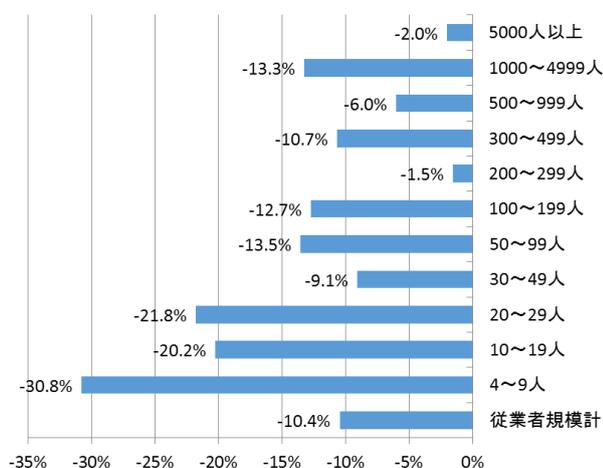
中小企業の海外市場開拓

経済学部教授 小林伸生

産業活動のグローバル化が進展する中で、製造業においても1990年代以後、大企業を中心に生産機能の海外移転が活発化した。それに伴い、国内への企業立地、とりわけ従来コスト優位性を利点として立地の受け皿となっていた地方圏における新規立地が減少し、いわゆる「産業空洞化」の問題が顕在化するようになった。

このことは、大企業との取引関係を重要な存立基盤としていた中小製造業にも多大な影響をおよぼしてきた。従業者規模別に見た付加価値創出力の近年の低下幅は、小規模事業所ほど大きくなっている。2008年～2014年の粗付加価値額の減少割合を工業統計表に基づいてみると、製造業事業者全体では-10.4%であるのに対して、従業者数4～9名の事業所では-30.8%に達する(図参照)。グローバル化の影響は、環境変化に対応して海外展開を行う中堅・大企業以上に、中小企業の事業環境の悪化となって顕著に現れている。

図 製造業事業所の規模別粗付加価値額の変化
(2008年～2014年)



出所)『工業統計表』より筆者作成

こうした状況を受け、産業政策においても近年、中小企業の海外進出を積極的に後押しする動きが本格化してきた。例えば国際協力機構(JICA)では、2012年から中小企業の海外展開支援を行っている。その中では海外事業に必要な情報収集・事業計画の策定などを行う基礎調査への支援、中小企業の製品・技術などを途上国開発に活用する可能性を検討する案件化調査、さらには現地適合性を高めるための実証・普及などへの促進事業が行われている。『IDJ』2016年12月号では、「真価問われる JICA 支援～高まる中小企業の海外熱～」という特集記事を組み、この5年間の政策実績や、地域、産官学協働の取り組み、さらには今後の課題などに関する政策担当者や有識者の見解を示している。その中では、支援事業が一定の成果を挙げてきたことを評価する一方、橋渡しをする開発コンサルタント等の仲介者へのインセンティブシステムのあり方や、現地ですばしば生じる不測の事態への柔軟な対応などの側面での改善ニーズが示されている。

一方、これらの海外市場開拓支援が、国内企業に対して与えている影響はどうか。丹下英明「輸出に取り組む中小企業の現状と課題」(『日本政策金融公庫論集』第33号)は、取引先企業9000社を対象として行ったアンケート調査に基づき、輸出に取り組む中小企業の特徴と課題を明らかにしている。それによると、①商社等を介した間接輸出のみならず、直接輸出に着手する中小企業も増えてきている、しかし②直接輸出は輸出開始に向けた取り組みに際しての費用や人材の負担が大きい。③輸出への取り組みは、それを通じた輸出先の法制度・商習慣、輸出先市場の動向などの知識の蓄積をもたらすとともに、企業の評判・イメージの工場や従業員の士気向上、品質管理水準の向上な

どのプラスの効果をもたらしていることを指摘している。また、児玉直美「大企業と中小企業の生産性格差の推移」(『経済統計研究』第44巻第2号)は、企業活動基本統計調査の製造業企業のデータを用い、生産性および価格に上乘せされた利潤(マークアップ)が、産業別の輸出・輸入浸透度によってどのように異なるかの分析を行っている。ここでは、①輸出浸透度が高い産業においては、浸透度が低い産業の生産性を常に上回り、その差は年々拡大している、②2000年代半ば以降、輸出浸透度が低い産業に属する企業のマークアップがほぼ横ばいで推移しているのに対して、高い産業においては順調に上昇していること等が明らかにされている。これらの発見は、海外進出・市場開拓を活発に行なっている産業において、少なくとも同時的には国内の生産・付加価値額も増加するという先行研究と、概ね整合的である。

中小企業の海外進出を支援する政策に関しては、自ら空洞化を後押しするようなことだとして懐疑的な見解もある。しかし、直近の実証研究成果を見る限りにおいては、少なくとも輸出の形態で海外市場の開拓に積極的に取り組む中小企業に関しては、国内での事業活動に対してもプラスの影響を及ぼしていると考えられる。

同時に、これらの言わば Win-Win の関係は、海外市場の開拓と並行して、国内における開発・生産機能の不断な向上を伴うがゆえに実現するものであることを、我々は想起すべきである。コスト優位性や市場の旺盛な需要を動機として行われる海外進出は、短期的にはプラスの効果をもたらすが、それは時間の経過と共にブーメラン効果を通じた国内産業への脅威もたらす可能性も併せ持つ。そうした懸念の払拭には、開発・生産機能の不断の向上を通じた国内拠点の差別化が不可欠な要素である。中小企業の海外進出が積極的に評価される今日、これらの促進は国内拠点の機能強化と車の両輪となって初めてプラスの効果をもたらすことを、改めて想起したい。